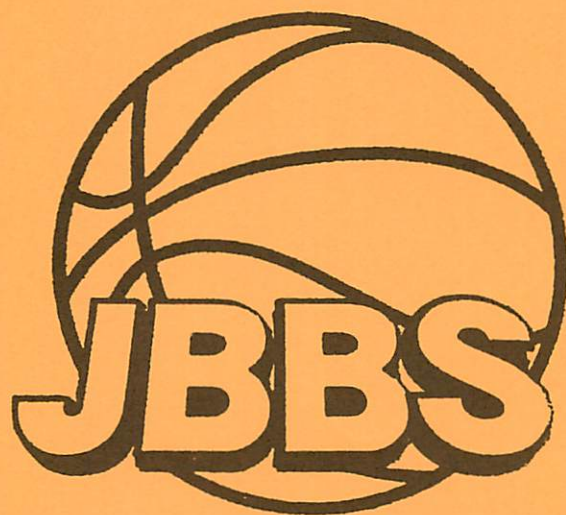


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:47



2010年11月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川115丁目5-7

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 | 検定球
貼り・天然皮革、7号球





手にとった瞬間、キミは驚くはず。
その翼のような軽さとしなやかさに。
1gでも軽くするために、あらゆる素材を
厳選し構造を何度も検証し
そして遂に、軽量でありながら
優れたクッション性と包み込む
ようなフィット感を実現させた。

夢は必ず叶うと信じるための1足。

ウエーブホープネオ

希望という名の翼、新登場。

WAVE HOPE NEO



キミに翼を。

目 次

- 第16回FIBA女子世界選手権大会・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
日本代表健闘して10位
- チェコ女子世界選手権応援旅行記・・・・・・・・・・・・・中瀬達雄・・・ 9
- 秋の講演会・交流会を開催・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
女子日本代表中川ヘッドコーチ講演
- 中学生のバスケットボール問題・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
世田谷区中体連有志の先生方との懇談会から
- オリンピックベルリン大会における
バスケットボール種目に関する史的考察・・・・・・・・・・及川佑介・・・ 27
- 日本協会創立80周年記念式典・祝賀会・・・・・・・・・・・・ 31
盛大に開催される
- 日本実業団連盟創立50周年記念式典開催・・・・・・・・・・・・ 38
- 関東大学女子連盟創立60周年・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
東京中日スポーツ紙全面記事2頁掲載
- 特別寄稿
関東女子学連草創のころ・・・・・・・・・・・・・・・・・・伊藤摩耶子・・・ 41
- スーパーシニア交歓大会に参加して・・・・・・・・・・・・・渡辺 誠・・・ 44
- 第24回FIBA女子アジア選手権・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
長崎／大村大会 組織委員会発足
- 第62回全日本大学選手権大会組合せ・・・・・・・・・・・・ 47
- 訃報・追悼文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
- 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
- プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

第16回FIBA女子世界選手権大会

日本代表健闘して10位

[編集部]

9月23日(木)からチェコで開催された首記大会で日本代表は8ゲームを戦い、2勝6敗で10位という成績だった。前回大会の13位から比べれば世界を相手に一步前進であり、敗れた6ゲームのうち5ゲームが僅差のクロスゲームだったことをみれば、まさに大健闘と言っても過言ではないであろう。ちなみにアジアからは日本以外に中国と韓国が出場したが、中国は13位に終わり韓国は8位という結果であった。

女子日本代表は大会直前になって代表選手の一人である川村選手が、日本への帰化問題によってFIBAから出場を認められないという通知を受け、11名のメンバーで戦わざるを得ないアクシデントにも見舞われた。すでに新聞などでご承知のように、中川ヘッドコーチはキャプテンの大神選手をポイントガードからシューターへと転向させ、この作戦が後々功を奏した結果になった。

[女子世界選手権日本代表メンバー]

主なスタッフ

役職	氏名	所属
ヘッドコーチ	中川 文一	日本協会
アシスタントコーチ	古海 五月	日本協会
アドバイザーコーチ	星澤 純一	神奈川県立金沢総合高校
アドバイザーコーチ	梅寄 英毅	山梨学院大学

選手

No.	選手名	P	身長 cm	体重 kg	年齢 歳	所属
4	名木 洋子	S F	175	67	28	富士通レッドウェーブ
5	高田 真希	P F	183	74	21	デンソーアイリス
7	三谷 藍	P F	181	68	32	富士通レッドウェーブ
8	鈴木 あゆみ	S F	180	69	24	富士通レッドウェーブ
9	諏訪 裕美	C	183	84	24	JOMOサンフラワーズ
10	藤吉 佐緒里	S G	178	67	23	シャンソン化粧品Vマジック
11	櫻田 佳恵	S G	170	63	26	トヨタ自動車アンテロープス
12	吉田 亜沙美	P G	165	64	22	JOMOサンフラワーズ
13	大神 雄子	P G	170	63	27	JOMOサンフラワーズ
14	高橋 礼華	S F	177	65	22	日本航空JALラビッツ
15	石川 幸子	S F	178	68	32	日本協会



【予選ラウンド成績】

世界から16チームが出場して開催されたこの大会は、4チームずつの4グループに分かれて総当たりリーグ戦を行い、各グループの上位3チームが2次ラウンドへ進出する組合せで行われた。日本代表はグループDに入りアルゼンチンを1点差で破ってグループ3位となり2次ラウンドへ進んだ。

日本はロシアには歯が立たなかったものの、この大会準優勝のチェコとは6点差の試合結果を残している。

グループDの結果

順位	チーム	ロシア	チェコ	日本	アルゼンチン	総得点	総失点	勝点
1	RUS		○55	○86	○77	218	174	6
2	CZE	●52		○66	○67	185	168	5
3	JPN	●63	●60		○59	182	210	4
4	ARG	●59	●53	●58		170	203	3

アルゼンチン戦

9月24日、前日ロシアに敗れた日本は、同様に1敗のアルゼンチンにはどうしても勝って2次ラウンドへ進出する手かかりをつかみたいところ。

日本は、試合の序盤から早いテンポでプレーを展開してリードするが、アルゼンチンのタフなボディコンタクトによってなかなかリードを2桁に広げられない。前半も後半も日本がリードを上げた際に相手が反撃に転じて猛攻撃を仕掛け、点差が縮まる試合展開となった。

日本は、第4ピリオド3分過ぎにはこの試合最大だった9点のリードを守れずに、53対52の1点差まで詰め寄られてしまった。日本は相手のボディコンタクトによる疲労のためかシュートがなかなか入らなかった。しかしアルゼンチンもイージーシュートを落としたりして、こう着状態が3分半ほど続いた。

その均衡を破ったのはアルゼンチンで、日本はゴール下シュートを決められて53対54と逆転された。しかし日本は、その後オフェンスリバウンドを何度も奪って攻撃の機会を増やし、遂には、#15石川がジャンプシュートを決めて55対54と逆転に成功する。対するアルゼンチンもシュートを決めて55対56、その直後に日本の#13大神が決めて57対56となり、めまぐるしく得点が動き出すという展開となった。

残り48秒、アルゼンチンがジャンプシュートを決めて57対58とリードする。この時点で日本のチームファウルは4回であったが、アルゼンチンは、ファウルをしていなかったため日本のオフェンスに対してシュート前にファウルをする作戦に出た。残り15秒、残り7秒とたびたび時計が止まり、とうとう残り1秒で両チームともタイムアウトを使い切った。

最後のオフェンスで日本は、スローイン#15石川の場面でディフェンス2人に囲まれた#13

大神がパスを受けるのと同時にステップし体制を崩しながらシュートするとボールがブザーとともにゴールに吸い込まれ、59対58と逆転勝ちを収めた。

この残り1秒での逆転劇はスクリーンをしてみると見せかけて、逆に走った#13大神の執念のシュートとそこへ絶妙のパスを送った#15石川の功績があるが、後半リバウンドを奪いまくった#12吉田や要所で得点を叩き出した#9諏訪や、#8鈴木などオンザコートとベンチが一体となって戦い、どうしても勝ちたいという全体の気持が実を結んだ結果となった。



この1勝によって日本は2次ラウンド進出をほぼ確実にした。

[2次ラウンド成績]

2次ラウンドは進出した6チームのリーグ戦だが、予選ラウンドで対戦したチーム同士は戦わず、予選ラウンドの結果がそのまま採用されるシステムである。したがって日本はロシア、チェコとは戦わず、スペイン、韓国、ブラジルと対戦した。スペインには大敗を喫したが、韓国とは1点差、ブラジルとは延長戦の末1ゴール差で敗れるなど今一步であり、日本はここで勝利をおさめることはできなかった。

グループFの結果

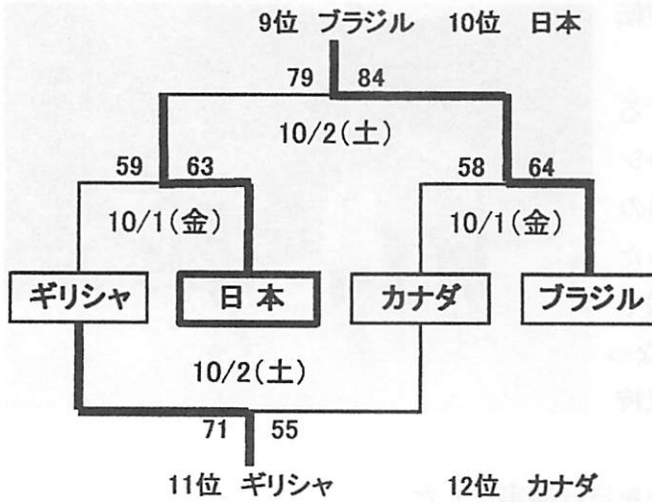
順位	チーム	ロシア	スペイン	チェコ	韓国	ブラジル	日本	総得点	総失点
1	RUS		○76	○77	○84	○69	○86	449	342
2	ESP	●67		○55	○79	○76	○86	463	354
3	CZE	●52	●57		○96	○84	○66	422	380
4	KOR	●48	●69	●65		○61	○65	376	449
5	BRA	●53	●57	●70	●60		○93	413	454
6	JPN	●63	●59	●60	●64	●91		396	454

日本は、スペインに敗れた後、続く対韓国とは64対65の1点差、対ブラジルとは延長戦のすえ91対93と、それぞれ僅差で敗れ、目標としていたベスト8に残ることができなかった。

中川ヘッドコーチは、韓国戦やブラジル戦のクロスゲームについて、国際舞台における経験の差が出てしまったと語っている。比較的若手の日本代表が今後国際的な経験を積むとともに速いバスケットを更に強化すれば、先行きの希望は明るいといえるだろう。

2次ラウンドグループFで最下位の日本は、9位から12位決定戦に回り、初戦のギリシャに63対59で勝利したが、9位をかけて再びブラジルと対戦して79対84の僅差で敗れ、最終的に10位という成績で世界選手権を終えた。

[9-1 2位決定戦]



ギリシャ戦

9-1 2位決定戦で日本対ギリシャのゲームは10月1日の9時試合開始となり、選手たちは早朝5時に起床し、ランニングや体操などで身体を動かして覚醒させ試合会場に向かう。

9時トスアップのゲームは両チームとも身体の動きが今ひとつで、なかなか得点が伸びない。



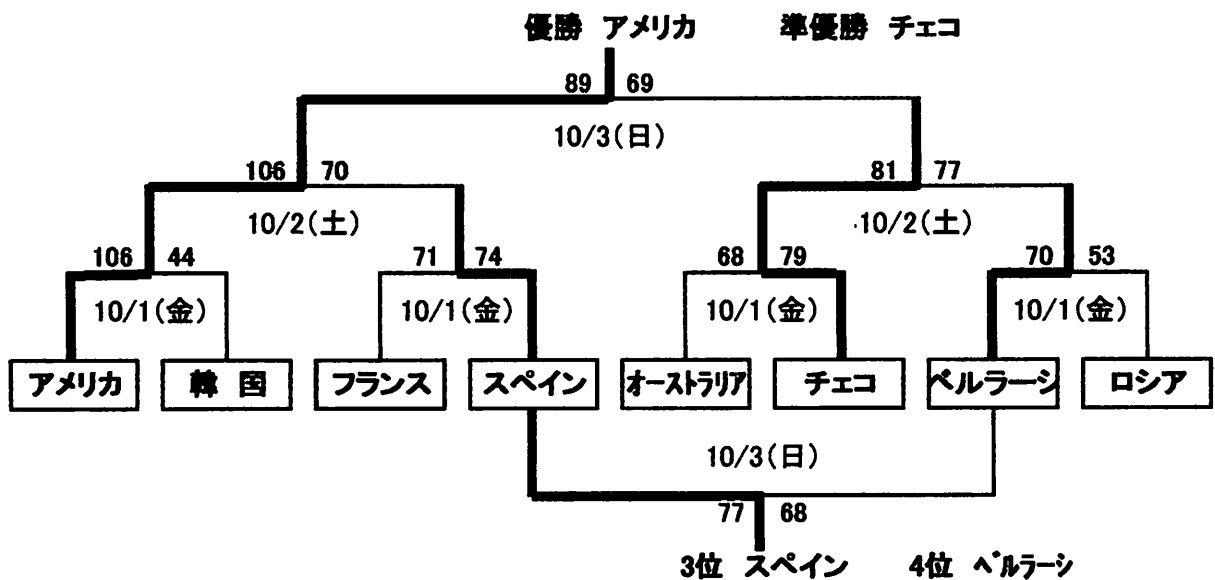
それでも日本は得点で先行してリードを奪い、前半は28対26の日本リードで終わる。ハーフタイムに入るとギリシャのキャプテンが選手全員を集めて激しく檄を飛ばす姿があった。

そのせいか後半に入るとギリシャが猛攻して一気に逆転し、日本は、アッという間に28対36とギリシャに8点をリードされた。しかし日本も疲れの見たギリシャに対して#13 大神、#11 櫻田、#8 鈴木らが得点ラッ

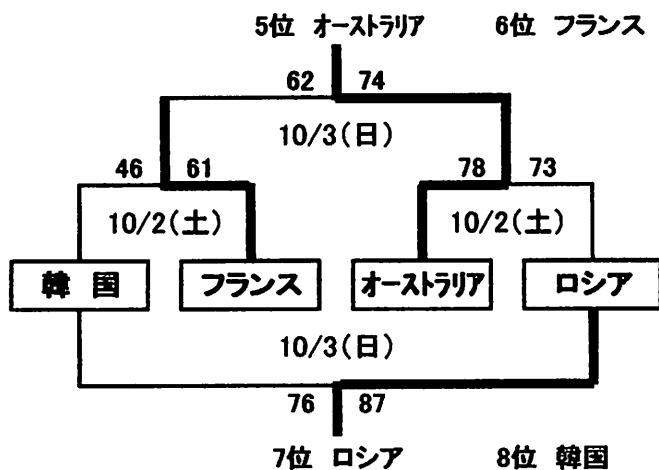
シュを重ね、8点差をひっくり返して再び1点リードした。

第4ピリオド一進一退の展開が続く中、ギリシャのエースが4ファウルで一時ベンチに下がった残り6分から日本が奮起して残り4分に6点のリードを奪う。しかし日本も石川のファウルアウトなどがあってギリシャに追い詰められその後59対59の同点となる。日本は残り1分#8 鈴木が前線へ走ったところへ#12 吉田が絶妙なパスを送り61対59と2点リードする。その後ギリシャのシュートがはずれ日本がリバウンドを奪って#13 大神が持ち込むとギリシャがファウルし#13 大神のフリースローとなったが、これが2本とも入らずギリシャが攻撃してシュートを放つ。しかしこれも成功せず、再び#13 大神がフリースローをもらう。今度はフリースローを2本決めて日本は63対59の4点リードとなる。この時時計は残り5秒、日本がディフェンスを守り切ってタイムアップ。日本は何度も経験したクロスゲームにアルゼンチン戦について勝利した。

[決勝トーナメント&3-4位決定戦]



[5-8位決定戦]



決勝トーナメントと5-8位決定戦は上記の通りで最終順位は以下の通り。

優勝	アメリカ	第7位	ロシア	第13位	中国
準優勝	チェコ	第8位	韓国	第14位	アルゼンチン
第3位	スペイン	第9位	ブラジル	第15位	マリ
第4位	ベラルーシ	第10位	日本	第16位	セネガル
第5位	オーストラリア	第11位	ギリシャ		
第6位	フランス	第12位	カナダ		

今回の女子世界選手権大会において嬉しいニュースが入ってきた。個人表彰の部で日本の大神選手が平均得点19.1で得点王に輝き、吉田選手が平均アシスト数4.6でアシスト王に輝いたことである。

特に得点王については日本人選手として1試合平均得点ランキング1位は初めてのことであり、得点王としては第6回大会の生井選手以来の快挙である。

また、吉田選手のアシストラランキング1位は日本人選手として初めてのことであり、同時に、スティールやリバウンド部門においてもベスト5に入っていることは、素晴らしいことであり、これからの日本らしいバスケットの道を切り拓いた感がある。

[各部門大会ベスト5]

<得点(1試合平均)>

Rk	Player name (IOC)	GP	Avg
1	大神 雄子(日本)	8	19.1
2	Sancho LYTTLE (ESP)	8	18.4
3	Evanthia MALTSI (GRE)	8	17.9
4	Amaya VALDEMORO (ESP)	9	17.7
5	Erika DE SOUZA MACHADO (BRA)	8	16.6

<得点(トータル)>

Rk	Player name (IOC)	GP	Total
1	Amaya VALDEMORO (ESP)	9	159
2	大神 雄子(日本)	8	153
3	Eva VITECKOVA (CZE)	9	148
4	Sancho LYTTLE (ESP)	8	147
5	Evanthia MALTSI (GRE)	8	143

<3Pシュート成功数>

Rk	GP	GP	Total	Avg
1	Yeon Ha BEON (KOR)	9	33	3.7
2	Evanthia MALTSI (GRE)	8	26	3.2
3	Eva VITECKOVA (CZE)	9	22	2.4
4	Amaya VALDEMORO (ESP)	9	21	2.3
5	三谷 藍(日本)	7	15	2.1
5	Styliani KALTSIDOU (GRE)	8	15	1.9

<アシスト>

Rk	Player name (IOC)	GP	Total	Avg
1	吉田 亜沙美(日本)	8	37	4.6
2	Hana HORAKOVA (CZE)	9	35	3.9
3	Celine DUMERC (FRA)	9	34	3.8
4	大神 雄子(日本)	8	30	3.8
5	Adriana PINTO (BRA)	8	27	3.4

<リバウンド>

Rk	Player name (IOC)	GP	Off	Def	Total	Avg
1	Erika DE SOUZA MACHADO (BRA)	8	36	60	96	12
2	Sancho LYTTLE (ESP)	8	37	55	92	11.5
3	Magnouma COULIBALY (MLI)	5	16	36	52	10.4
4	Yelena LEUCHANKA (BLR)	9	21	58	79	8.8
5	吉田 亜沙美(日本)	8	14	51	65	8.1

<スティール>

Rk	Player name (IOC)	GP	Total	Avg
1	Hana HORAKOVA (CZE)	9	26	2.9
2	Angel MCCOUGHTRY (USA)	9	24	2.7
3	Evanthia MALTSI (GRE)	8	19	2.4
4	吉田 亜沙美(日本)	8	17	2.1
5	Teresa GABRIELE (CAN)	8	15	1.9

*なお文中の写真は全てJBA提供のものです。

プラザ こぼればなし

- ◇ 先に掲載された会員中瀬さんの記事によれば、先日チェコで開催されたFIBA女子世界選手権大会では日本を応援する人々が少数であり、チームを最高の状態でプレーできるように鼓舞する応援が出来なかったとある。

一方昨年9月、本大会の予選であるインドのチェンナイで開催されたアジア女子選手権大会では、本誌43号の記事にあるように、矢代主将が「現地チェンナイの日本人会の方々にも本当によく支えていただき、元気をもらいました」と語っている。すなわち、日の丸を掲げ選手の名を叫ぶという現地日本人会の方々によるご支援が日本チームへ大きな力を与えたに違いない。

このような実情から、多くの方々による現地での応援体制を構築することが好成績を得るための一つの手段であろうことは間違いない。振興会でも知恵を絞って日本代表チームの今後の海外試合に対する効果的な応援を実現したいものである。振興会ではプロジェクトチームを編成してこれを検討する方針である。振興会事務局へ皆様からのご提案を歓迎します。

- ◇ 今回総務部で企画された記事で、中学生のバスケットボールに対する問題が浮き彫りにされており、振興会が有する人材の経験やノウハウを提供する講習会を先生方に提案してみたいという。中学校レベルでの底上げに振興会が積極的に協力したいものである。このクラスでの講習会は、日本リーグやbjリーグのチームをはじめとして積極的に実施されているが、サッカーのように地域に根付くプロチームがこの年齢層での自前のチームを結成して指導し、相互に交流することによって若年層をレベルアップさせることも出来ると思う。このような姿を夢見ているが、バスケットボールでもこれを実現できるようプロチームの発展を祈ると共に惜しみない応援を贈りたい。

- ◇ 全日本女子代表チーム中川ヘッドコーチの講演を聴取して痛感したことは、世界のトップレベルに到達するには自明ではあるが大型でシュートのうまい選手を集め、鍛えることにある。

先日、関東女子学生リーグ戦を観戦したが、高校時代には将来を期待された大型選手が余り伸びていないと感じた。厳しく鍛え上げる環境にないのであろうか。よいプレーを見せたかと思えばイーギーミスを繰り返し、勝ちに行く姿勢、気迫が欠けて見えた。プレイヤー本人の気構えはもちろんだが、指導される方も更に上位、例えば全日本優勝を見据えて大型選手を育ててほしいものである。

- ◇ JBL2が理念の一つに「日本バスケットボールの普及、育成、強化」を掲げ、「地域への深化、全国への広域化」を目指して、9チームで全国規模のゲームを展開している。ここで上位に頑張っているリンク栃木の2軍ともいべきTGI・Dライズは、育成選手が一軍のリンク栃木に上られる要素があるので選手獲得に優位である。最近企業支援を主体とするチームは運営費の削減が厳しく、若い有望な選手の獲得が難しい状況にある。例えば、地域への深化を図って応援団を結成しても全国行脚の費用は自己負担で厳しい。JBL2では、各チームの運営費削減を考慮して、リーグ発展の為の具体策を早急に検討すべきではあるまいか。

どんな道も、
自分の道に変えられる。



SOUND mind
sound body

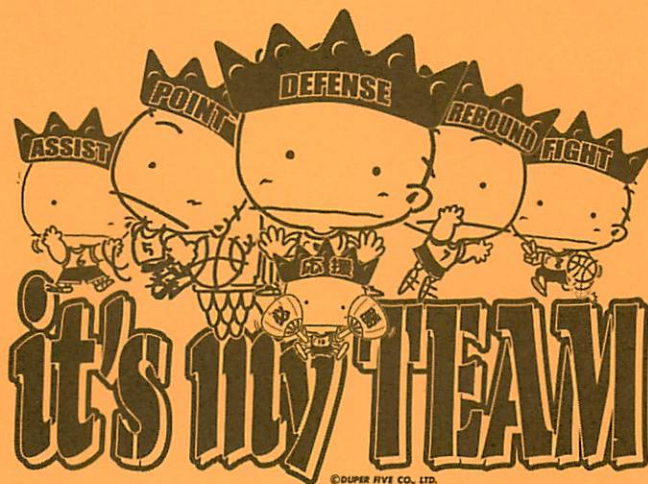
asics



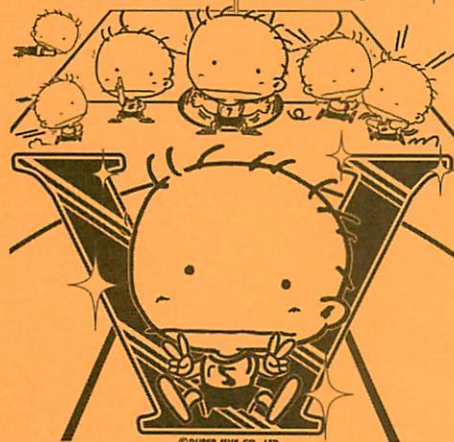
DUPER®



表現の自由人。



VICTORY GAMES



DUPER®

URL : <http://www.duper.co.jp>

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

E-mail: info@duper.co.jp